

NO. 03

スタートアップ★アイデアソン

優勝チームプラン名

「めめんたる」

チームリーダー 嶋本 翔治さん (生命科学部3回生)

三浦 優希さん (法学部4回生)



(優勝チーム受賞写真 左から) 嶋本さん、三浦さん

優勝チームのコメント

※優勝チームには第18回立命館大学学生ベンチャーコンテスト2021のシード権が授与され、1次書類審査は免除となります。

【嶋本さん】 今回のアイデアソンで私はたった1日、数時間で自分が変わりました。本当に本当です。今回技術シーズということで、ある程度自分のアイデアを持って挑みました。ですが、技術を開発した登壇して下さった先生たちのお話や実際に技術を手に取った経験によって、自分の持っていたアイデアが大幅に変わり、僅差ではありましたが優勝することができました。また、多数の仲間との刺激や参加して下さったゲストの皆さんの助言によって、新たな知見を得て、数時間前とは比べ物にならないほど成長した自分となりました。少しでも、今の自分を変えてみたい、何かをしたいけど何をしたらいいのかわからない、より良くしたい人はぜひ参加してみてください。参加すれば、きっとなりたい自分に近づくと思います。

【三浦さん】 技術シーズに実際に触れてアイデア出すのは私にとって新しい経験でした。ポラスコードやスマートアイウェアという技術を手にとることができ、研究者である先生方にもたくさん質問ができて非常に面白かったです。一方で自由にアイデアを出す場合とは異なり、すでにプロダクトがある状態でビジネスを考えるのは難しい経験になりました。他の参加者からは、自分にはない視点を学ぶことができ創造力を鍛えるのにもびつりのイベントだと思います。アイデアを考えるのが好きな方やいろんな刺激や経験が欲しい方にぜひおすすめしたいです。

中野 学 氏 | ピクシーダストテクノロジーズ株式会社 事業本部 産学連携ファンクションリーダー

新規事業においては、提供する顧客価値、その実現手段、事業で儲ける方法、の3つに新規性を持たせる事が重要です。顧客価値に軸足を置いて実現手段を探せば商品企画型になり、実現手段に軸足を置いて顧客価値とのマッチングを探れば技術企画型になります。今回は技術シーズが定められていたので後者の取組でしたが、コンセプトの軸足を定め、要因分解して再構成して新規性を出して企画をまとめる、その進め方は商品企画型でも技術企画型でも同じです。そして苦手な部分はそこが得意な人を巻き込んで補間する、これもとても重要な事の一つです。このプログラム、企画力を試す良い機会だと思います。軸足の定め方、構成の仕方、企画のまとめ方、色々なやり方を試してスキルアップしてければと思います。

